基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ	ガッコウジツシ メイホウケン									
設置者	学校法人 明星学苑									
フリガナ	メイホウガクダクイン									
大学の名称	明星大学大学院									
大学本部の位置	東京都日野市程久保2丁目1番地1									
大学の目的	明星大学大学院は、高度の学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成を目的とする。この目的を実現するための教育研究の成果を広く社会に提供することにより、学術文化の発展に寄与するものとする。									
新設研究科等の目的	建築学研究科では、学部教育から続く、建築学に関する専門知識及び実践的な技術をより高度に用いて、時代や環境の変化に対応した安全、健康かつ快適な建築、住宅及び都市空間を創出・提供することで、社会に貢献できる人材を育成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 建築学部 建築学科
	建築学研究科 建築学専攻	年	人	年次 人	人	修士 (建築学)	工学関係	令和7年 4月 第1年次	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	計	2	5	—	10					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	理工学研究科 建築・建設工学専攻〔廃止〕 (M: △5、D: △3) ※令和7年4月学生募集停止 人文学研究科 社会学専攻〔廃止〕 (M: △10、D: △3) ※令和7年4月学生募集停止									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数			
	建築学研究科 建築学専攻	講義	演習	実験・実習	計					
		17科目	21科目	—	38科目	30単位				

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の 教員(助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分		人	人	人	人	人	人	人	
	建築学研究科 建築学専攻 (修士課程)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
	計	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
既設分	理工学研究科 物理学専攻 (博士前期課程)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 物理学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 化学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 化学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 機械工学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	
	理工学研究科 機械工学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 電気工学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
	理工学研究科 電気工学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	
	理工学研究科 環境システム学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	
	理工学研究科 環境システム学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
	人文学研究科 国際コミュニケーション 専攻(博士前期課程)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	
	人文学研究科 国際コミュニケーション 専攻(博士後期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
	情報学研究科 情報学専攻 (博士前期課程)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	
	情報学研究科 情報学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
	経済学研究科 応用経済学専攻 (修士課程)	7 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	5 (5)	
	教育学研究科 教育学専攻 (博士前期課程)	11 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (14)	0 (0)	6 (7)	
	教育学研究科 教育学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (1)	
	心理学研究科 心理学専攻 (博士前期課程)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	3 (3)	
	心理学研究科 心理学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
	教育学研究科 教育学専攻 (通信教育課程) (博士前期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	
	教育学研究科 教育学専攻 (通信教育課程) (博士後期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	
		計	85 (88)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	104 (107)	0 (0)	21 (22)
	合計		95 (98)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	120 (123)	0 (0)	21 (22)
	職 種		専 属			そ の 他		計	
	事 務 職 員		153 (153)			139 (139)		292 (292)	
	技 術 職 員		0 (0)			71 (71)		71 (71)	
図 書 館 職 員		2 (2)			1 (1)		3 (3)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
	計	155 (155)			211 (211)		366 (366)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	269,888㎡	0㎡	0㎡	269,888㎡				
	そ の 他	19,366㎡	0㎡	0㎡	19,366㎡				
	合 計	289,254㎡	0㎡	0㎡	289,254㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		176,674㎡ (176,674㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	176,674㎡ (176,674㎡)				
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室				
		106室	241室	244室	16室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具	標本	学部等単位での 特定不能なた め、大学全体の 救。	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	点	点		
	建築学研究科 建築学専攻	861,741 [313,050] (864,741 [313,050])	135,191 [131,445] (135,191 [131,445])	7,883 [5,871] (7,883 [5,871])	4,913 [4,817] (4,913 [4,817])	9,061 (9,061)	83 (83)		
	計	861,741 [313,050] (864,741 [313,050])	135,191 [131,445] (135,191 [131,445])	7,883 [5,871] (7,883 [5,871])	4,913 [4,817] (4,913 [4,817])	9,061 (9,061)	83 (83)		
経 費 の 積 り 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	共同研究費等は大学全体。図書購入費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費(運用コスト含む)を含む。設備購入費は大学全体。
		教員1人当たり研究費等		550千円	550千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		36,000千円	36,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	45,000千円	45,000千円	45,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	20,000千円	20,000千円	20,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	納付金 学生1人 当り	研究科	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		建築学研究科 (修士課程)	1,100千円	850千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		理工学研究科 (博士前期課程)	1,100千円	850千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		理工学研究科 (博士後期課程)	1,100千円	850千円	850千円	— 千円	— 千円		
		人文学研究科 (博士前期課程)	850千円	600千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		人文学研究科 (博士後期課程)	850千円	600千円	600千円	— 千円	— 千円		
		情報学研究科 (博士前期課程)	1,100千円	850千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		情報学研究科 (博士後期課程)	1,100千円	850千円	850千円	— 千円	— 千円		
		経済学研究科 (修士課程)	850千円	600千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		教育学研究科 (博士前期課程)	850千円	600千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		教育学研究科 (博士後期課程)	850千円	600千円	600千円	— 千円	— 千円		
心理学研究科 (博士前期課程)	1,050千円	800千円	— 千円	— 千円	— 千円				
心理学研究科 (博士後期課程)	1,050千円	800千円	800千円	— 千円	— 千円				
教育学研究科 (通信教育課程) (博士前期課程)	570千円	420千円	— 千円	— 千円	— 千円				
教育学研究科 (通信教育課程) (博士後期課程)	570千円	420千円	420千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、補助金収入 等							

大学等の名称	明星大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	理工学部 総合理工学科	4	280 (10)	—	1,120 (20)	学士(理学) 学士(工学)	0.96 0.96	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和5年度より入学定員の内数で10人を学部等連係課程実施基本組織に拠出
	人文学部 国際コミュニケーション学科	4	90	—	390	学士(国際コミュニケーション学)	1.01 0.90	平成17年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和6年度より入学定員減(△10人)
	人間社会学科	4	80	—	320	学士(社会学)	1.17	昭和40年度		
	心理学科	4	—	—	—	学士(心理学)	—	平成22年度		平成29年度より学生募集停止(心理学科)
	日本文化学科	4	90	—	390	学士(文学)	1.06	平成22年度		令和6年度より入学定員減(△10人)
	福祉実践学科	4	50	—	230	学士(社会福祉学)	0.87	平成22年度		令和6年度より入学定員減(△10人)
	経済学部 経済学科	4	260 (10)	—	1,040 (20)	学士(経済学)	1.00 1.00	平成13年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和5年度より入学定員の内数で10人を学部等連係課程実施基本組織に拠出
	情報学部 情報学科	4	155 (10)	—	575 (20)	学士(情報)	1.20 1.20	平成17年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和5年度より入学定員の内数で10人を学部等連係課程実施基本組織に拠出
	教育学部 教育学科	4	350	—	1,400	学士(教育学)	1.21 1.21	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和6年度より入学定員増(15人)
	経営学部 経営学科	4	200	—	800	学士(経営学)	1.12 1.12	平成24年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	デザイン学部 デザイン学科	4	120	—	480	学士(デザイン学)	1.09 1.09	平成26年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	心理学部 心理学科	4	120	—	480	学士(心理学)	1.22 1.22	平成29年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	建築学部 建築学科	4	135	—	495	学士(建築学)	1.14 1.14	令和2年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和6年度より入学定員増(15人)
	データサイエンス学環 (学部等連係課程実施基本組織)	4	(30)	—	(60)	学士(データサイエンス)	—	令和5年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和5年4月設置
	(通信教育部) 教育学部 教育学科 (通信教育課程)	4	2,000	—	8,000	学士(教育学)	0.39 0.39	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定員	編入学 定員	収 容 定員	学 位 又 は 称 号	収 容 定 員 充 足 率	開 設 年 度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	理工学研究科 (博士前期課程)						0.54		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	物理学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.15	昭和54年度		
	化学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.60	昭和48年度		
	機械工学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	0.60	昭和55年度		
	電気工学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	0.20	昭和54年度		
	建築・建設工学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	1.20	平成20年度		
	環境システム学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	1.10	平成20年度		
	(博士後期課程)						0.01			
	物理学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.00	昭和56年度		
	化学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.00	昭和51年度		
	機械工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.06	昭和57年度		
	電気工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.00	昭和56年度		
	建築・建設工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.00	平成20年度		
	環境システム学専攻	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成20年度		
	人文学研究科 (博士前期課程)						0.07		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	英米文学専攻	2	—	—	—	修士(英米文学)	—	昭和58年度		令和2年度より学 生募集停止 (英米文学専攻)
	国際コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士(国際コミュニケーション学)	0.15	令和2年度		
	社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.00	昭和46年度		
	心理学専攻	2	—	—	—	修士(心理学)	—	昭和49年度		令和2年度より学 生募集停止 (心理学専攻)
	(博士後期課程)						0.33			
	英米文学専攻	3	—	—	—	博士(英米文学)	—	昭和63年度		令和2年度より学 生募集停止 (英米文学専攻)
	国際コミュニケーション専攻	3	3	—	9	博士(国際コミュニケーション学)	0.55	令和2年度		
	社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.11	昭和51年度		
	心理学専攻	3	—	—	—	博士(心理学)	—	昭和53年度		令和2年度より学 生募集停止 (心理学専攻)
経済学研究科 (修士課程)						0.65		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
応用経済学専攻	2	10	—	20	修士(応用経済学)	0.65	平成18年度			

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定員	編入学 定員	収 容 定員	学 位 又 は 称 号	収 容 定 員 充 足 率	開 設 年 度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	情報学研究科 (博士前期課程)						0.78		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	情報学専攻	2	7	—	14	修士(情報学)	0.78	平成10年度	
	(博士後期課程)						0.22		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	情報学専攻	3	3	—	9	博士(情報学)	0.22	平成12年度	
	教育学研究科 (博士前期課程)						0.15		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	教育学専攻	2	10	—	20	修士(教育学)	0.15	平成26年度	
	(博士後期課程)						0.00		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	教育学専攻	3	3	—	9	博士(教育学)	0.00	平成26年度	
	心理学研究科 (博士前期課程)						1.06		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	心理学専攻	2	15	—	30	修士(心理学)	1.06	令和2年度	
	(博士後期課程)						0.77		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	心理学専攻	3	3	—	9	博士(心理学)	0.77	令和2年度	
(通信制大学院)								東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
教育学研究科 (博士前期課程)						0.46			
教育学専攻 (通信教育課程)	2	30	—	60	修士(教育学)	0.46	平成114年度		
(博士後期課程)						1.77		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
教育学専攻 (通信教育課程)	3	3	—	9	博士(教育学)	1.77	平成18年度		
	附属施設の概要	該当なし							

組織の移行表

令和6年度	入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	収容 定員	変更の事由
明星大学						
理工学部			理工学部			
総合理工学科	280	1,120	総合理工学科	280	1,120	
(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)	(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)	
人文学部			人文学部			
国際コミュニケーション学科	90	360	国際コミュニケーション学科	90	360	
人間社会学科	80	320	人間社会学科	80	320	
日本文化学科	90	360	日本文化学科	90	360	
福祉実践学科	50	200	福祉実践学科	50	200	
経済学部			経済学部			
経済学科	260	1,040	経済学科	260	1,040	
(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)	(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)	
情報学部			情報学部			
情報学科	155	620	情報学科	155	620	
(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)	(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)	
教育学部			教育学部			
教育学科	350	1,400	教育学科	350	1,400	
経営学部			経営学部			
経営学科	200	800	経営学科	200	800	
デザイン学部			デザイン学部			
デザイン学科	120	480	デザイン学科	120	480	
心理学部			心理学部			
心理学科	120	480	心理学科	120	480	
建築学部			建築学部			
建築学科	135	540	建築学科	135	540	
データサイエンス学環	(30)	(120)	データサイエンス学環	(30)	(120)	
計	1,930	7,720	計	1,930	7,720	
教育学部(通信教育課程)			教育学部(通信教育課程)			
教育学科	2,000	8,000	教育学科	2,000	8,000	
明星大学大学院						
理工学研究科(博士前期課程)			理工学研究科(博士前期課程)			
物理学専攻(M)	10	20	物理学専攻(M)	10	20	
化学専攻(M)	10	20	化学専攻(M)	10	20	
機械工学専攻(M)	10	20	機械工学専攻(M)	10	20	
電気工学専攻(M)	10	20	電気工学専攻(M)	10	20	
建築・建設工学専攻(M)	5	10	建築・建設工学専攻(M)	0	0	令和7年4月学生募集停止
環境システム学専攻(M)	5	10	環境システム学専攻(M)	5	10	
人文学研究科(博士前期課程)			人文学研究科(博士前期課程)			
社会学専攻(M)	10	20	社会学専攻(M)	0	0	令和7年4月学生募集停止
国際コミュニケーション専攻(M)	10	20	国際コミュニケーション専攻(M)	10	20	
情報学研究科(博士前期課程)			情報学研究科(博士前期課程)			
情報学専攻(M)	7	14	情報学専攻(M)	7	14	
経済学研究科(修士課程)			経済学研究科(修士課程)			
応用経済学専攻(M)	10	20	応用経済学専攻(M)	10	20	
教育学研究科(博士前期課程)			教育学研究科(博士前期課程)			
教育学専攻(M)	10	20	教育学専攻(M)	10	20	
心理学研究科(博士前期課程)			心理学研究科(博士前期課程)			
心理学専攻(M)	15	30	心理学専攻(M)	15	30	
			<u>建築学研究科(修士課程)</u>			研究科の設置(届出)
			<u>建築学専攻(M)</u>	5	10	
計	112	224	計	102	204	
理工学研究科(博士後期課程)			理工学研究科(博士後期課程)			
物理学専攻(D)	5	15	物理学専攻(D)	5	15	
化学専攻(D)	5	15	化学専攻(D)	5	15	
機械工学専攻(D)	5	15	機械工学専攻(D)	5	15	
電気工学専攻(D)	5	15	電気工学専攻(D)	5	15	
建築・建設工学専攻(D)	3	9	建築・建設工学専攻(D)	0	0	令和7年4月学生募集停止
環境システム学専攻(D)	2	6	環境システム学専攻(D)	2	6	
人文学研究科(博士後期課程)			人文学研究科(博士後期課程)			
社会学専攻(D)	3	9	社会学専攻(D)	0	0	令和7年4月学生募集停止
国際コミュニケーション専攻(D)	3	9	国際コミュニケーション専攻(D)	3	9	
情報学研究科(博士後期課程)			情報学研究科(博士後期課程)			
情報学専攻(D)	3	9	情報学専攻(D)	3	9	
教育学研究科(博士後期課程)			教育学研究科(博士後期課程)			
教育学専攻(D)	3	9	教育学専攻(D)	3	9	
心理学研究科(博士後期課程)			心理学研究科(博士後期課程)			
心理学専攻(D)	3	9	心理学専攻(D)	3	9	
計	40	120	計	34	102	
教育学研究科(通信教育課程)			教育学研究科(通信教育課程)			
教育学専攻(M)	30	60	教育学専攻(M)	30	60	
教育学専攻(D)	3	9	教育学専攻(D)	3	9	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
理工学研究科 建築・建設工学 専攻(M)(廃止)	修士(工学)	工学関係	建築学研究科建築学専攻(M)	14	9	建築学研究科 建築学専攻(M)	修士 (建築学)	工学関係	理工学研究科建築・建設工学専攻(M)	14	9
			退職	1	1				建築学部建築学科	2	1
			計	15	10				計	16	10
理工学研究科 機械工学専攻 (M)	修士(工学)	工学関係	理工学研究科機械工学専攻(M)	7	7	理工学研究科 機械工学専攻 (M)	修士(工学)	工学関係	理工学研究科機械工学専攻(M)	7	7
			退職	1	1				新規採用	1	1
			計	8	8				計	8	8
理工学研究科 電気工学専攻 (M)	修士(工学)	工学関係	理工学研究科電気工学専攻(M)	4	4	理工学研究科 電気工学専攻 (M)	修士(工学)	工学関係	理工学研究科電気工学専攻(M)	4	4
			退職	3	3				新規採用	3	3
			計	7	7				計	7	7
理工学研究科 環境システム学 専攻(M)	修士(工学)	工学関係	理工学研究科環境システム学専攻(M)	7	5	理工学研究科 環境システム学 専攻(M)	修士(工学)	工学関係	理工学研究科環境システム学専攻(M)	7	5
			計	7	5				計	7	5

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和54年4月	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)設置	工学関係	設置協議(専攻)
昭和55年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)設置	工学関係	設置協議(専攻)
平成5年4月	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成8年4月	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成9年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成10年4月	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成11年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成12年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成13年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成14年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成15年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成17年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成18年4月	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成19年4月	理工学研究科機械工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成20年4月	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程・博士後期課程)設置	工学関係	設置届出(専攻)
	理工学研究科環境システム学専攻(博士前期課程・博士後期課程)設置	工学関係	設置届出(専攻)
	理工学研究科機械工学専攻の修士課程を博士前期課程に変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻の修士課程を博士前期課程に変更	工学関係	学則変更
平成21年4月	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成22年4月	理工学研究科電気工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成23年4月	理工学研究科電気工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成24年4月	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成25年4月	理工学研究科機械工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成26年4月	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成27年4月	理工学研究科電気工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成29年4月	理工学研究科機械工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科電気工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
	理工学研究科環境システム学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
令和6年4月	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程)のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
令和7年4月	建築学研究科建築学専攻(修士課程)設置	工学関係	設置届出(研究科)
	理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程・博士後期課程)の学生募集停止	—	学生募集停止(専攻)

教育課程等の概要																
(建築学研究科建築学専攻(修士課程))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任教員以外の教員
専攻科目	建築意匠特論	1・2前	/		2			○		1						隔年 隔年
	建築史特論	1・2前			2			○		1						
	建築計画特論	1・2後			2			○			1					
	建築設計特論	1・2前			2			○		1						
	住宅デザイン特論	1・2後			2			○			1					
	建築・都市政策特論	1・2前			2			○		1						
	都市計画特論	1・2前			2			○		1						
	防災工学特論	1・2後			2			○		1						
	建築構造特論	1・2前			2			○			1					
	構造デザイン特論	1・2前			2			○			1					
	地震工学特論	1・2後			2			○		1						
	解析学特論	1・2後			2			○			1					
	建築環境特論	1・2前			2			○		1						
	建築設備特論	1・2前			2			○		1						
	住環境特論	1・2前			2			○			1					
	地盤工学特論	1・2前			2			○		1						
	建築生産特論	1・2前			2			○		1						
小計(17科目)		—	—	0	34	0		—	10	6	0	0	0	0		
演習・実験科目	建築意匠演習	1・2前	/		2			○		1					※実験 ※実験 隔年 隔年 ※実験 ※実験	
	建築史演習	1・2前			2			○		1						
	建築計画演習	1・2後			2			○			1					
	建築設計演習	1・2後			2			○		1						
	住宅デザイン演習	1・2後			2			○			1					
	建築・都市政策演習	1・2前			2			○		1						
	都市計画演習	1・2後			2			○		1						
	防災工学演習	1・2後			2			○		1						
	建築構造演習・実験	1・2前			2			○			1					
	構造デザイン演習	1・2前			2			○			1					
	地震工学演習・実験	1・2後			2			○		1						
	解析学演習	1・2後			2			○			1					
	建築環境演習	1・2前			2			○		1						
	建築設備演習	1・2前			2			○		1						
	住環境演習	1・2前			2			○			1					
	地盤工学演習・実験	1・2前			2			○		1						
	建築生産演習・実験	1・2前			2			○		1						
小計(17科目)		—	—	0	34	0		—	10	6	0	0	0	0		
論文指導科目	建築学研究1	1前	/		2			○		10	6					
	建築学研究2	1後			2			○		10	6					
	建築学研究3	2前			4			○		10	6					
	建築学研究4	2後			4			○		10	6					
	小計(4科目)			—	—	12	0	0	—	10	6	0	0	0	0	
合計(38科目)			—	—	12	68	0	—	10	6	0	0	0	0		
学位又は称号		修士(建築学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
修了要件：2年以上在学し、専攻科目について30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士学位論文又は修士設計(特定課題研究)の審査及び最終試験に合格すること。 履修方法：専攻科目のうち、研究科目から18単位以上、論文指導科目(必修)12単位、合計30単位以上修得すること。								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業の標準時間			90分					

教育課程等の概要															
(理工学研究科建築・建設工学専攻(博士前期課程))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自山	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	建築意匠特論	1・2前	/		2			○		1					
	建築史特論	1・2後			2			○		1					
	建築計画特論	1・2後			2			○			1				
	建築設計特論	1・2前			2			○		1					
	構造デザイン特論	1・2前			2			○			1				
	建築構造特論	1・2前			2			○			1				
	建築生産特論	1・2前			2			○		1					
	建築環境学特論	1・2前			2			○		1					
	建築設備特論	1・2後			2			○		1					
	住宅特論	1・2後			2			○			1				
	コミュニティデザイン特論	1・2前			2			○		1					
	都市計画特論	1・2前			2			○		1					
	防災工学特論	1・2後			2			○		1					
	地震工学特論	1・2後			2			○		1					
	地盤工学特論	1・2前			2			○		1					
	解析特論	1・2後			2			○			1				
小計(16科目)	—	—	0	32	0			—	10	5	0	0	0	0	
演習・実験	建築意匠演習	1・2前	/		2			○		1					
	建築史演習	1・2後			2			○		1					
	建築計画演習	1・2後			2			○			1				
	建築設計演習	1・2後			2			○		1					
	構造デザイン演習・実験	1・2前			2			○			1				
	建築構造演習・実験	1・2前			2			○			1				
	建築生産演習・実験	1・2前			2			○		1					
	建築環境学演習・実験	1・2前			2			○		1					
	建築設備演習・実験	1・2後			2			○		1					
	住宅演習	1・2後			2			○			1				
	コミュニティデザイン演習	1・2後			2			○		1					
	都市計画演習	1・2後			2			○		1					
	防災工学演習・実験	1・2後			2			○		1					
	地震工学演習・実験	1・2後			2			○		1					
	地盤工学演習・実験	1・2前			2			○		1					
	解析演習・実験	1・2後			2			○			1				
小計(16科目)	—	—	0	32	0			—	10	5	0	0	0	0	
インターンシップ	建築・建設工学インターンシップ	1・2前	/		4	0			○	10	5				
	小計(1科目)	—		—	0	4	0		—	10	5	0	0	0	0
論文指導科目	建築・建設工学研究1	1前	/		2			○		10	5				
	建築・建設工学研究2	1後			2			○		10	5				
	建築・建設工学研究3A(論文)	2前			2			○		10	5				
	建築・建設工学研究3B(設計)	2前			2			○		4	2				
	建築・建設工学研究4A(論文)	2後			2			○		10	5				
	建築・建設工学研究4B(設計)	2後			2			○		4	2				
小計(6科目)	—	—	4	8	0			—	10	5	0	0	0	0	
合計(39科目)		—	—	4	76	0			—	10	5	0	0	0	0
学位又は称号	修士(工学)			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件：2年以上在学し、専攻科目について30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士学位論文又は修士設計(特定課題研究)の審査及び最終試験に合格すること。 履修方法：専攻科目のうち、研究科目から22単位以上、論文指導科目から必修4単位を含め8単位、合計30単位以上修得すること。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業の標準時間			90分				

教育課程等の概要																
(建築学部建築学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任(助手を除く)
	学びとキャリア	1前		2				○						兼5	オムニバス方式	
	データサイエンスリテラシー	1前・後		2				○						兼3		
	世界の言葉と文化を知る	1前		2				○						兼7		
	健康スポーツ科学論	1前・後		2				○						兼1		
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	英語1A	1前			1			○						兼3		
	英語1B	1前			1			○						兼3		
	英語2A	1後			1			○						兼3		
	英語2B	1後			1			○						兼3		
	ドイツ語1A	1前			1			○						兼2		
	ドイツ語1B	1前			1			○						兼2		
	ドイツ語2A	1後			1			○						兼2		
	ドイツ語2B	1後			1			○						兼2		
	フランス語1A	1前			1			○						兼2		
	フランス語1B	1前			1			○						兼2		
	フランス語2A	1後			1			○						兼2		
	フランス語2B	1後			1			○						兼2		
	中国語1A	1前			1			○						兼2		
	中国語1B	1前			1			○						兼2		
	中国語2A	1後			1			○						兼2		
	中国語2B	1後			1			○						兼2		
	韓国語1A	1前			1			○						兼2		
	韓国語1B	1前			1			○						兼2		
	韓国語2A	1後			1			○						兼2		
	韓国語2B	1後			1			○						兼2		
	スペイン語1A	1前			1			○						兼2		
	スペイン語1B	1前			1			○						兼1		
	スペイン語2A	1後			1			○						兼1		
	スペイン語2B	1後			1			○						兼1		
	英語3A	2・3・4前			1			○								兼4
	英語3B	2・3・4前			1			○								兼3
	英語4A	2・3・4後			1			○								兼4
	英語4B	2・3・4後			1			○								兼3
	ドイツ語3A	2・3・4前			1			○								兼2
	ドイツ語3B	2・3・4前			1			○								兼2
	ドイツ語4A	2・3・4後			1			○								兼2
	ドイツ語4B	2・3・4後			1			○								兼2
	フランス語3A	2・3・4前			1			○								兼2
	フランス語3B	2・3・4前			1			○								兼2
	フランス語4A	2・3・4後			1			○								兼2
	フランス語4B	2・3・4後			1			○								兼2
	中国語3A	2・3・4前			1			○								兼1
	中国語3B	2・3・4前			1			○								兼1
	中国語4A	2・3・4後			1			○								兼1
	中国語4B	2・3・4後			1			○								兼1
韓国語3A	2・3・4前		1			○							兼2			
韓国語3B	2・3・4前		1			○							兼2			
韓国語4A	2・3・4後		1			○							兼2			
韓国語4B	2・3・4後		1			○							兼2			
スペイン語3A	2・3・4前		1			○							兼1			
スペイン語3B	2・3・4前		1			○							兼1			
スペイン語4A	2・3・4後		1			○							兼1			
スペイン語4B	2・3・4後		1			○							兼1			
実践英会話1	3・4前		1			○							兼1			
実践英会話2	3・4後		1			○							兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		専 任 教 員 以 外 の 教 員 (別 手 を 除 く)	
全学共通科目	言葉で世界につながる	実用英語 1	3・4前		1			○								兼1	
		実用英語 2	3・4後		1			○								兼1	
		中級ドイツ語 1	3・4前		1			○								兼1	
		中級ドイツ語 2	3・4後		1			○								兼1	
		上級ドイツ語 1	4前		1			○								兼1	
		上級ドイツ語 2	4後		1			○								兼1	
		中級フランス語 1	3・4前		1			○								兼1	
		中級フランス語 2	3・4後		1			○								兼1	
		上級フランス語 1	4前		1			○								兼1	
		上級フランス語 2	4後		1			○								兼1	
		中級中国語 1	3・4前		1			○								兼1	
		中級中国語 2	3・4後		1			○								兼1	
		上級中国語 1	4前		1			○								兼1	
		上級中国語 2	4後		1			○								兼1	
		中級韓国語 1	3・4前		1			○								兼1	
		中級韓国語 2	3・4後		1			○								兼1	
		上級韓国語 1	4前		1			○								兼1	
		上級韓国語 2	4後		1			○								兼1	
		中級スペイン語 1	3・4前		1			○								兼1	
		中級スペイン語 2	3・4後		1			○								兼1	
	上級スペイン語 1	4前		1			○								兼1		
	上級スペイン語 2	4後		1			○								兼1		
	海外語学研修A	1・2・3・4前・後		2					○							兼5	集中
	海外語学研修B	2・3・4前・後		2					○							兼5	集中
	現代社会で学ぶ	多摩と生活	1・2・3・4後		2			○								兼4	オムニバス方式、期1(一部)
		多摩を歩く	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		多摩と自然	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		大学論	1・2・3・4前		2			○								兼4	
	健康に生きる	体育スポーツ科学実践A	1・2・3・4前		1					○						兼5	オムニバス方式
		体育スポーツ科学実践B	1・2・3・4後		1					○					兼5		
		現代スポーツ論	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	身体論	1・2・3・4後		2			○								兼3		
	考えを広げる (知識を知恵に①)	物理学で読み解く世界	1・2・3・4前		2			○								兼1	令和16年度未開講
		生活の中の化学	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		生物学から見える世界	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		地球惑星学	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		数学で社会を見る	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		科学技術が作り出す世界	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		私たちの暮らしと環境科学	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		現代社会と工学	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		情報の活用と倫理	1・2・3・4前・後		2			○								兼5	
		地理学で知る生活・文化・環境	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		現代社会の仕組み	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		政治学から見える社会	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		国際関係を読み解く	1・2・3・4前		2			○								兼1	
		社会に生きる私たちの人権	1・2・3・4後		2			○								兼1	
ジェンダーを考える		1・2・3・4前		2			○								兼1		
図書館の基礎と展望		1・2・3・4前		2			○								兼1		
現代経済への視点		1・2・3・4後		2			○								兼1		
日本国憲法		1・2・3・4前		2			○								兼1		
法学から見える社会		1・2・3・4後		2			○								兼1		
グローバル時代の経営		1・2・3・4前		2			○								兼1		
情報社会文化論		1・2・3・4後		2			○								兼1		
統計から見える世界	1・2・3・4後		2			○								兼1			
教育と21世紀の社会	1・2・3・4後		2			○								兼1			
生涯学習論	1・2・3・4前		2			○								兼1			
ボランティア論	1・2・3・4後		2			○								兼1			
テーマで学ぶ歴史	1・2・3・4前		2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
全学共通科目	① 考えを広げる(知識を知恵に①)	グローバル・ヒストリー	1・2・3・4後	/		2		○			4						兼1	オムニバス方式		
		日本の歴史と文化	1・2・3・4前		2	○							兼1							
		日本文化の深層	1・2・3・4後		2	○							兼1							
		哲学から考える人間	1・2・3・4後		2	○							兼1							
		哲学から考える世界	1・2・3・4前		2	○							兼1							
		宗教と人間	1・2・3・4前		2	○							兼1							
		遺物が語る世界	1・2・3・4後		2	○							兼1							
		世界の人々の生活と文化	1・2・3・4前		2	○							兼1							
		芸術の見方	1・2・3・4後		2	○							兼1							
		文学の世界に浸る	1・2・3・4前		2	○							兼1							
		人間と言葉	1・2・3・4後		2	○							兼1							
		心理学と人々の行動	1・2・3・4前		2	○							兼1							
		都市と建築	1・2・3・1後		2	○							兼1							
		音楽と社会・文化の結びつき	1・2・3・1前		2	○							兼1							
		地域研究(イスラーム世界)	1・2・3・1後		2	○							兼1							
		地域研究(アジア)	1・2・3・1後		2	○							兼1							
		地域研究(アメリカ)	1・2・3・1前		2	○							兼2 オムニバス方式、開1(一部)							
	地域研究(アフリカ)	1・2・3・1後	2	○						兼2 オムニバス方式										
	地域研究(ヨーロッパ)	1・2・3・1前	2	○						兼2 オムニバス方式										
	食から見えるからだと文化	1・2・3・1前	2	○						兼1										
	学問の世界	1・2・3・1前	2	○						兼7 オムニバス方式										
	② 考えをクロスさせる(知識を知恵に②)	人類とその環境	1・2・3・1前	/	2			○										兼2	オムニバス方式	
		戦争と安全保障	1・2・3・1後		2				○										兼3	オムニバス方式
		現代社会と平和	1・2・3・1前		2				○										兼6 オムニバス方式、開1(一部)	
		気候と人口の問題	1・2・3・1後		2				○										兼3	オムニバス方式
		ポスト経済成長時代の未来論	1・2・3・1前		2				○										兼3	オムニバス方式
		社会の中の法	1・2・3・1後		2				○										兼3	オムニバス方式
宗教から見える現代社会		1・2・3・1前	2					○										兼2	オムニバス方式	
アートとアートの境界線		1・2・3・1後	2					○										兼3	オムニバス方式	
世界の芸術のその深層		1・2・3・1前	2					○										兼4	オムニバス方式	
創造される歴史と人々が紡ぐ歴史		1・2・3・1後	2					○										兼2	オムニバス方式	
21世紀の社会像を描く		1・2・3・1前	2					○										兼4	オムニバス方式	
ELSI(科学技術における倫理的・法的・社会的課題)		1・2・3・1前	2					○										兼2	オムニバス方式	
これからのエネルギーとその利用		1・2・3・1前	2					○										兼1	オムニバス方式	
文学作品のメタファー		1・2・3・1後	2					○										兼4	オムニバス方式	
都市という空間		1・2・3・1前	2					○										兼4	オムニバス方式	
ことばと文化の結びつき		1・2・3・1後	2					○										兼2	オムニバス方式、開1(一部)	
母語から見える世界と外国語から見える世界		1・2・3・1前	2					○										兼3	オムニバス方式	
ことばの窓から広がる世界	1・2・3・4後	2				○										兼3	オムニバス方式			
スポーツと外国語	1・2・3・4前	2				○										兼3	オムニバス方式 令和6年度未開講			
世界の身体文化	1・2・3・4後	2				○										兼3	オムニバス方式			
スポーツを通して地域を学ぶ	1・2・3・4前	2				○										兼2	オムニバス方式、開1(一部)			
スポーツとテクノロジー	1・2・3・4後	2				○										兼4	オムニバス方式			
境界線上の日本学	1・2・3・4前	2				○										兼2				
ダイバーシティ&インクルージョン	1・2・3・4後	2				○										兼2				
サステイナビリティと人類社会	1・2・3・4前	2				○										兼2				
全学共通科目	③ 考えを深める(知識を知恵に③)	教養ゼミ1	3・4前	/	2				○									兼6		
		教養ゼミ2	3・4後		2				○									兼6		
		教養ゼミ3	4前		2				○									兼6		
		教養ゼミ4	4後		2				○									兼6		
		小計(162科目)	—		—	8	242	0		—			4	0	0	0	0		兼104	
キャリア形成科目	基礎 発展	社会とキャリア	1後	/	2				○									兼3		
		仕事とキャリア	2後		2				○								兼4			
		キャリアデザイン基礎	2前		2				○									兼5		
		キャリアデザイン応用	2後		2				○									兼5		
		働き方とキャリア	4後		2				○									兼2		
小計(5科目)	—	—	0	10	0		—			0	0	0	0	0		兼8				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		専 任 教 員 以 外 の 教 員	
学 科 日	基礎科目	建築入門	1前	2				○		9	6						オムニバス方式
	基礎代数学	1前	2				○		1	1						兼1	オムニバス方式
	実務の専門家が語る建築学	1後	2				○		4								
	基礎解析学	1後	2				○		1	1						兼1	
	基礎物理学	1前		2			○		1	1							
	建築デザイン幾何学	2前		2			○		1	1							
	小計 (6科目)	—	—	8	4	0		—	12	6	0	0	0			兼1	
専 門 基 幹 科 目	建築概論	1前	2				○		1								
	造形デザイン実習	1前	2					○	1	2							兼5
	建築基礎力学	1前	2				○		1								
	西洋建築史	1後	2				○		1								
	建築基礎設計製図	1後	2					○	3	2							兼2
	建築計画1	2前	2				○			1							
	建築法規	2前	2				○		1								
	建築設計製図1	2前	2					○	2	2							兼5
	建築構造力学	2前	2				○			1							
	建築構造計画	2前	2				○		1								
	建築環境学1	2前	2				○		1								
	日本建築史	2前	2				○										兼1
	建築設計製図2	2後	2					○	4								兼6
	建築設備1	2後	2				○		1								
	建築環境計画	2後	2				○		1								
	建築構法	2後	2				○			1							
	建築材料力学	2後	2				○			1							
	建築設計製図3	3前	2					○	5								兼4
	建築材料学	3前	2				○			1							
	建築施工管理	3後	2				○		1								
	建築表現	1後		2				○	2								兼1
	建築基礎力学演習	1後		2				○	2								
	建築材料実験	1後		2				○	1	2							兼4
	建築CAD演習A	2前		2				○	2	1							兼3
	建築構造実験	2前		2				○	2	1							兼4
	建築CAD演習B	2後		2				○	1	1							兼4
	建築構造力学演習	2後		2				○	1	1							
	建築診断・リフォーム	2後		2				○									兼1
	施工実習	2後		1					○	1							兼1
	減災学	3前		2				○	4	1							オムニバス方式
木造建築	3前		2				○	1								オムニバス方式	
BIM演習	3前		2					○		1						兼2	
測量学	3前		2				○	1									
測量学実習	3集中		1					○	1								
ランドスケープ	3後		2				○									兼1	
建築マネジメント	3後		2				○	1									
小計 (36科目)	—	—	40	30	0		—	12	6	0	0	0			兼34		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任教員以外の教員	
学科科目 専門発展科目	建築計画2	3前	/		2		○				1					オムニバス方式	
	建築意匠	3前			2		○				1						
	都市環境デザイン論	3前			2		○				1						
	建築再生論	3前			2		○				1						
	建築環境学2	3前			2		○				1						
	構造デザイン	3後			2		○					1					
	都市計画	3後			2		○				1		1				
	コミュニティデザイン概論	3後			2		○				1						
	建築設備2	3後			2		○				1						
	建築デザインスタジオ	3後			2				○		6	2					
	住まいのデザイン	3前			2			○				1					
	住まい計画	3前			2			○				1					
	インテリアデザイン	3前			2			○				1					
	住宅と社会	3前			2			○				1					
	住環境と福祉	3後			2			○				1		1			
	住宅と実務	3後			2			○				1					
	住宅デザインスタジオ	3後			2					○		2	2				
	建築構造解析	3前			2			○				1					
	鉄筋コンクリート構造	3前			2			○					1				
	鉄骨構造	3前			2			○				1					
	地盤基礎工学	3前			2			○				1					
	都市数理工学	3後			2			○				2					
	耐震工学	3後			2			○				1					
	水工水理学	3後			2			○				1					
	地盤工学	3後			2			○				1					
	建築都市エンジニアリングスタジオ	3後			2					○		4	2				
インターンシップ	3前		2					○		11	6						
建築総合演習A	4前		2					○		1							
建築総合演習B	4後		2					○		1							
卒業研究	4通年		8					○		10	5						
小計(30科目)				8	58	0				12	6	0	0	0	0		
合計(239科目)					64	344	0			12	6	0	0	0	兼147		
学位又は称号		学士(建築学)		学位又は学科の分野				工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
全学共通科目から32単位以上、学科科目から必修科目52単位を含む92単位以上、合計124単位以上修得すること。 [履修科目の登録の上限: 45単位(年間)]							1学年の学期区分		2学期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業の標準時間		90分								

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学研究科建築学専攻(修士課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目 研究科目 専門・応用科目	建築意匠特論		建築意匠設計・建築計画を目指す学生に必須な科目である。建築の根源的プログラムについて具体的な事例を基に考察する。建築の目的・要求・機能・空間に関して時代背景も鑑みて建築作品を読み解く。対象とする建築は建築学会賞受賞作品を中心に行うことで、各時代における建築に求められた社会的役割も学んでいく。授業はテキストを使用すると同時に、学生自身で調査したことも交えて双方向形式で行う。授業内で実際の建築を訪問する機会も設ける。	
	建築史特論		本講義では、国内外の歴史的建造物および関連する文献を対象に、建造物の現代的価値について考察し、自らの考えをまとめ表現する能力の修得を行う。建築の歴史的過程には、その後の建造物の飛躍的発展に寄与した特徴的な建造物や文献がある。各回の授業では、設定されたテーマに沿って、その客観的資料を読み込み発表する。地域社会との関係、景観との関係、素材の変化など、とりわけ歴史的建造物に関する視点を資料をもとに解説し、それに関するディスカッションを行う。歴史的建築物の影響力を多角的に捉え直すことを通して、幅広い建築価値観の理解を到達目標とする。最終的には、歴史的建造物の価値基準の内に、自らの建築作品や論文を位置づけ、提案の現代的意義を的確に表現することをめざす。	
	建築計画特論		建築設計における基本である空間の作られ方をはじめとして、建築空間の使われ方や空間内における人の心理をもとにした建築空間に関する様々な議論について、具体的な事例をもとに講義形式で学修することを目的とする。到達目標は、①建築空間の作られ方を理解すること、②人の寸法や心理など建築空間を考える上で必要なことを理解すること、③それらをふまえて建築空間の使われ方を理解すること、である。授業内で実際の建築を訪問する機会も設ける。	
	建築設計特論		本講義では、建築・住環境設計に関する高度な実践力を身につけることを目標とする。設計に採用された建築技術の内容、構法、材料等について、建築図面等を分析・考察することで図面の読解力を向上させる。また、多くの専門知識を学び諸技術の総合化の方法を修得する。対話型の授業では、省エネ化への応答等、法改正が続く建築界の現況を踏まえ、十分な諸性能を有しながらもデザイン的に評価が高い最新の建築を対象に、フィールドワークも交えながら実践的に建築を分析・考察し、設計力の更なる向上を図る。	
	住宅デザイン特論		本講義では、住宅設計における詳細のデザインを扱う。はじめに、建築家による木造住宅の実設計図一式を教材とし、ディテールの成り立ちと性能について学ぶ。次に、特にデザイン的な工夫がなされている住宅のディテールを読み解き、そのデザインの意図を理解する。さらに、住宅のプランニングや空間デザインとディテールの関係を考察する。アクティブラーニングとして、住宅のディテールに関する資料収集やディテールが住空間デザインに与える影響について発表を行う。	
	建築・都市政策特論		現代の都市や建築は無秩序に成り立ってきたわけではない。1919年に市街地建築物法および都市計画法が制定されてから、天災への対応、環境性能の変遷、避難安全等の強化など、都市や建築物を規定する法制度は、長い時間をかけて、人々にとって有益な秩序を形成するように改変されてきている。一方で、改変が場当たりの指摘もあり、法制度としては複雑、難解すぎるとの指摘もある。以上の経緯を前提として、現在の建築および都市の政策、法制度を理解するとともに、建築・都市を規定する様々な法制度を含め、それぞれの法の立法趣旨を理解する。授業では、課題図書の内容の輪講およびテーマとなる法制度を学生が選択し、調査した内容を発表する。	
	都市計画特論		都市計画の一般理論について講義する。講義では、都市計画制度、都市解析手法、総合計画、土地利用計画、交通計画、都市政策、環境計画、計画評価など、都市計画分野における主要な学術論文(知識理解)を取り上げ、目的・背景、調査・分析手法(技能表現)、結果・考察を通じて、都市計画研究の動向と考え方(思考判断)を体系的に講義する。特に、学術論文のレビューを通じて当該分野の研究の蓄積を広く学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専攻科目	研究科目	専門・応用科目	防災工学特論		安全で快適な都市・地域形成のため、自然災害に対する防災まちづくりの観点から、災害事例を紹介し、災害発生メカニズム、被害の拡大・波及の原因、社会的影響について解説する。その上で、各地域の災害教訓を把握すると共に、都市構造、地域構造の現状及び現行の発災前の災害予防措置、発災直後の緊急対策、その後の復旧・復興対策について考察し、課題等について理解を深め、将来の都市・地域の安全管理の効果的な方策を考究する講義を行う。自然災害多発国である日本における防災上の技術、制度を学び、考察し、問題点、課題点を明らかにすることにより、国外においても安全で快適な都市形成、地域形成に貢献できる意識を養う。	
			建築構造特論		学士課程で学んだ建築材料実験、建築構造実験、構造力学、材料力学、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、耐震工学などを基礎に、これらを用いた建築構造に関する設計理論を修得する。講義では、鋼・コンクリート合成構造やプレストレストコンクリート構造などを扱い、建築構造設計等の実務における事例を交えて解説する。到達目標は、①構造設計の理論を正しく理解し説明できること、②材料の物理的性質や力学的特性と関連付けて構造の特徴を理解すること、③外力に対する構造の挙動をイメージできること、である。	
			構造デザイン特論		構造設計の実務において適用される構造計画・構造デザインの手法を横断的に学び、修得することを目的とする。授業は講義形式とし、テキストを使用しながら、追加プリントによって内容を補う。一般論として認識される知識の修得に加え、建物は個々にユニークであることから、各プロジェクトの与条件に伴って生じる問題に対して、どう解決をはかっているのか、具体的な構造設計事例を取り上げながら解説する。授業概要としては、構造計画の意義、建物に作用する荷重、力の流れとかたち、鉛直荷重に対する架構計画、水平荷重に対する架構計画、地震力に対する抵抗メカニズム、鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木質構造の構造計画、部材および構造システムのハイブリッド、地盤・敷地にかかわる構造計画、耐震改修における構造計画などを取り上げる。	
			地震工学特論		本講義では、耐震設計を行う上で重要な構造物の地震応答を正しく評価するための理論について、英文テキストを通じて学んでいく。建築構造物は振動体であるため、バネと質点からなる振動モデルを考え、このモデルに基づき理論・解法について理解を深めていく。具体的には、一質点系の振動、運動方程式、自由振動の解、減衰自由振動、調和振動応答、非減衰系の解、減衰系の解、共振・免震、周期荷重に対する応答、衝撃荷重に対する応答、多自由度系の振動、質量・剛性マトリクス、固有値解析、モーダルアナリシスを修得する。	
			解析学特論		さまざまな分野でコンピュータ支援技術は不可欠となっている。本講義では構造物の特徴をコンピュータで解析するための理論を講義する。具体的には、①コンピュータ解析の種類、②数値計算の仕組（反復計算、数値積分、有限要素法）、③運動方程式の導出方法（ニュートンの運動方程式、ラグランジュの運動方程式、ハミルトンの運動方程式）、④有限要素法の定式化（節点座標、形状関数、質量行列、剛性行列、減衰行列）、⑤非線形有限要素法への発展、⑥多体系動力学への応用方法について学修する。	
			建築環境特論		住宅環境を主な対象とし、伝統的な民家の負荷低減手法や現代住宅における省エネルギー手法について、建築の実例や研究事例を通して学修することを目的とする。また、脱炭素社会における住宅建築の問題点や課題について理解を深め、建築環境工学の基礎知識に基づいた環境設計手法を修得する。到達目標は、①伝統的民家の環境負荷低減手法や現代住宅の省エネルギー手法を理解すること、②現代住宅に求められる環境性能を理解すること、③立地条件や気候・風土に合わせた環境設計手法を選定・提案できるようになること、である。	隔年
			建築設備特論		空調調和・換気・給排水などの建築設備について、具体的な建築事例を中心に学修し、実務に関わる幅広い知識の修得を目的とする。また、脱炭素社会への対応など、建築設備の実務における問題点や課題への理解を深め、解決手法を把握することで、実践的な設備設計の基礎を学ぶ。到達目標は、①ZEB (Net Zero Energy Building)化の実現などの社会的な要求に対して、建築意匠・建築構造等の各分野と問題を共有し、建築設備が果たすべき役割を理解すること、②建築用途や立地条件などの状況に合わせ、適切な省エネルギー手法を選定・提案できるようになること、である。	隔年

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	研究科目	専門・応用科目	住環境特論	住宅の温熱環境・光環境・空気環境を空間構成と合わせて検証する手法を修得する。はじめにいくつかの実例を詳細に紹介し、実務の中でどのようなプロセスを経て、空間構成が決定したかを学ぶ。次に断熱性能や冷暖房計画、自然採光や照明計画、換気計画などについて学ぶ。さらに実在する住宅の環境シミュレーションを行い、シミュレーションソフトの使い方を学ぶ。住宅のエネルギー消費を定量的に扱う手法の実践を通して、省エネルギー住宅を設計するための技術を修得する。授業内で実際の建築を訪問する機会も設ける。	
			地盤工学特論	地盤工学特論では、建物を建てた場合に生じる沈下問題に関連する土の圧密特性、降雨時に生じる斜面崩壊に関連する土のせん断特性、また、地震時に生じる液状化現象に関連する動的せん断特性について講義する。この講義によって地盤の実際の挙動とその理論的な考え方を十分理解できる講義とする。講義内容としては、土の圧密特性、土のせん断特性、動的せん断特性の順にそれぞれ実際の現象を示し、理論的な考え方を説明する。さらに、講義の中では実務に使用される地盤変形解析の土の代表的な理論構成則であるカムクレイモデルについても概説する。	
			建築生産特論	建築の生産プロセスは、「建築物の企画・構想～建築計画～建築設計～工事施工・工事監理～維持・保全～修繕・更新」などである。本講義では、建築生産プロセスを概観し、各段階に必要な知識・技術・スキル等を抽出していく。授業では、各回ごとにテーマを設定し、受講者が事前に調査した内容をプレゼンテーションし、これに対するディスカッションを行う。到達目標は、建築生産プロセスの各段階に必要な知識・技術・スキル等を理解し、建築生産プロセスを円滑に進める手法を修得することである。	
	演習・実験科目	建築意匠演習	建築意匠演習は建築意匠設計を志す学生を対象に行う。全体は二つの設計課題を中心に行っていく。ひとつは具体的な対象を設定した建築設計である。課題として大学構内への提案や、身近な場所への提案を中心に行う。よくわかる場所に提案することで、周囲との環境調和、社会的制約、法規、要望の整理などのまとめ方も学び、将来の意匠設計者として自立するための基礎を学ぶ。もうひとつは設計競技への参加である。設計競技への参加ではアグレッシブな提案、高度なプレゼンテーション力を養い仕事を勝ち取る力を養う。		
		建築史演習	本演習では、歴史的建造物や歴史的街並みなどの歴史的空間の再編をテーマとした設計課題を行う。既存の歴史的空間を現代的視点から捉え直し、新しい価値を生み出す提案を求める。敷地および既存の歴史的空間の選定、関連する先行事例の調査、計画敷地の調査を経て、各自の独創的なアイデアをコンセプトとして抽象化し、構造の合理性を満たした設計案として、図面・模型等の手段にて具体的に表現する。さらに、地域社会における役割について熟考すると共に、建築空間とランドスケープの豊かな関係も追求することに期待する。授業では、発表とエスキスを中心に行うが、歴史的空間の再編として参考となる現代建築物や街並み、ランドスケープ等への視察見学も行う。		
		建築計画演習	建築計画の研究の分析を中心としたディスカッションによる双方向の授業を行う。毎回の授業で様々なテーマの実際の論文を読み、それをもとに建築と人との関係や建築空間の使われ方などに対する議論を学ぶことを目的とする。また、取り上げた議論が行われている場所に実際に足を運ぶことで、紙面上の議論と実際の空間との関係性を体験する。到達目標は、①建築計画の研究でどのような議論がされているのかを学ぶ、②その議論を基に様々な観点から議論する力を身につける、③その議論を経て空間が実際にどのような様になっているのかを体験的に身につける、である。		
建築設計演習		建築設計特論で修得した建築設計における建築技術の総合化の方法、建築設計に関する専門知識を基に、都市・社会への応答を考慮した建築設計を実践する。到達目標は、①解析ソフトを一部採用し建築の諸技術を実践・総合化する方法により建築設計作品を制作すること。②建築設計における建築の諸技術と建築デザインに関する様々な空間と時間の概念を把握し、それらを活かした建築設計を達成することである。			
住宅デザイン演習	住宅デザイン演習では、住宅設計課題に取り組む。第1課題では、現在の日本の社会状況を分析したうえで、未来の日本の住宅のプロットタイプの提案を行う。単身者世帯の増加や少子高齢化社会の進行を踏まえて、これからの日本の住宅がどのように変化していきべきかを考える。第2課題では、住宅の1室を詳細にデザインし、ディテールやインテリアを提案する。色彩や素材の提案を含め、具体的な空間イメージを提案する。				

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	研究科目	演習・実験科目	建築・都市政策演習	建築・都市政策特論で調査、研究したテーマについて、現状での問題点を掘り起こし、あるべき法制度、あるべき規定を検討する。その前提として、公共による私権の制限についても検討する必要があるため、憲法、民法などについても理解し、権利の調整の役割としての法規範について検討する。これらのことを前提として、現在の建築および都市の政策、法制度の改正をするならば、どのような規定が適当であるかについて研究し、改正案、政策提言を作成する。授業では、憲法、民法に関する輪講を行うとともに、テーマとなる法制度を学生が選択し、調査した内容を基に、問題点の指摘から法制度の改正提案を発表する。	
			都市計画演習	演習を通じて都市計画の実践を学ぶ。都市計画特論で学んだ知識(知識理解)を基に、ケーススタディ地区について抱える課題を明らかにし、その対策立案のために必要な情報を絞り込んだ上で調査計画を立て、更に調査結果から得られたデータを基に分析を行い、考察としてまとめる(思考判断)。本演習では、学生自らの企画立案によるプロジェクト型の演習(技能表現)を通じて、計画策定に関わる一連の作業を学ぶことを目的とする。	
			防災工学演習	わが国は、戦後、経済政策と防災対策と一体化した開発を進めた結果、世界でも進んだ防災技術を持つ国に至った。その一方で、都市化が急速に進行し、生活が高度化、情報化するにつれて災害に対する脆弱性は高くなっている。また、今日、経済的発展が著しい諸外国では、防災対策を無視して開発を急ぐあまりに自然災害による被害が多発している。開発が社会に及ぼす自然災害増大リスクとその影響に焦点を当て、日本の経験を踏まえ、都市・地域における安全管理のあり方について、防災技術、防災計画、防災行政、安全安心まちづくりについて、事例を取り上げながら、物理的、社会的側面から解説する。防災の基礎的知識を身につけるため対象地域を選んでフィールド調査によるデータ収集と分析を実施する。	
			建築構造演習・実験	学士課程で学んだ建築材料実験、建築構造実験、構造力学、材料力学、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、耐震工学などを基礎とし、これらに応用した構造について力学的特性を理解するとともに、設計手法を修得する。演習・実験では、鋼・コンクリート合成構造やプレストレストコンクリート構造などを扱い、建築構造設計等の実務における事例を交えて解説する。到達目標は、①構造設計の理論および設計手法を理解し、基本的な設計ができること、②材料の物理的性質や構造の力学的特性を理解し、構造設計に生かせること、③設計内容の妥当性を確認できること、である。	演習24時間 実験6時間
			構造デザイン演習	演習は二つの課題に取り組む内容とし、構造解析、構造計画の手法を修得することを目的とする。前半では、大学構内の具体的な建物をとりあげ、図面を読み解いた後、実物の調査を行う。図面から解析モデルをつくり、実情に応じた荷重条件、支持条件を設定し、汎用構造解析ソフトを用いて構造解析を行い、変形や応力を確認する方法を学ぶ。後半では、学生自身で同規模の建物の構造計画を行い、自身が設計した構造体の解析モデルを構築して構造解析を用いた検討を行う。構造の検討を通じて、設計を洗練させていき、一次設計レベルにおける安全性を確認し、構造図にまとめる。最後に、自身の構造設計についてプレゼンテーションを行う。	
			地震工学演習・実験	地震工学特論の理解度をより深めるために、理論が詳述され章末問題が掲載されている英文テキストを用いて演習問題を解きそれに関連する実験を行う。具体的には、一質点系の振動、運動方程式、自由振動の解、減衰自由振動、調和振動応答、非減衰系の解、減衰系の解、共振・免震、周期荷重に対する応答、衝撃荷重に対する応答、多自由度系の振動、質量・剛性マトリクス、固有値解析、モーダルアナリシスに関する演習問題を解き、それに関連する実験を行い、地震工学に関する理論・問題の解決法を修得する。	演習24時間 実験6時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専攻科目	研究科目	演習・実験科目	解析学演習		解析学特論で学んだ内容の理解を深めるため、機構運動解析ソフトウェアを用いて、実際にコンピュータ解析を体験し、その利用・活用方法を演習形式で修得する。具体的には、①解析モデルの作成（ボディ要素の作成と編集）、②拘束条件の作成（各種ジョイントの幾何学的特徴の理解、ジョイント作成と編集）、③力要素の作成（外力要素作成、内力要素作成）、④接触要素の作成（接触による反発力の特徴の理解、接触要素の設定）、⑤解析（静的問題、動的問題）を演習を通じて実践する。また、解析結果の考察、数値計算精度の設定と計算誤差の考察、有限要素法を用いた柔軟要素の解析、大変位運動を考慮した柔軟要素の解析、機構を有する構造物の運動解析を行い、建築構造物の機構を含んだ動的挙動の解析方法を修得する。	
			建築環境演習		建築環境設計などで使用される人体温冷感モデルやシミュレーション技術を用いた演習を行い、環境形成における光・熱・空気などのふるまいについて理解を深めることを目的とする。具体的には人体温冷感指標のひとつであるPMV(Predicted Mean Vote)と昼光シミュレーションを取り扱う。授業では、各種技術の理論を学修したのち、建築環境設計を前提とした演習を実施する。到達目標は、①PMVの理論を正しく理解すること、②昼光シミュレーション技術を正しく使用できること、③建築環境設計への活用を前提に、必要な条件設定をできるようにすること、である。	隔年
			建築設備演習		建築設備設計の実務において多くの活用事例があるCFDについて、室内環境に関する演習を行い、CFD (Computational Fluid Dynamics) 技術の修得および室内環境形成手法への理解を深めることを目的とする。授業では、CFDの基礎理論を学修したのち、室内の空調・換気システムを対象にCFDによる温度分布や換気効率を算出し、省エネルギー性や換気効率などに関する評価を行う。到達目標は、①CFDに関連する知識を修得し、正しく活用できること、②与えられた課題に対し、適切な条件設定を行うことができること、③CFDにより得られた結果を適切に評価することができること、である。	隔年
			住環境演習		具体的な敷地と家族を対象とした住宅を、住環境シミュレーションを取り入れて設計する。設計のプロセスを通して、建築の形態や設備とエネルギーの関係性を把握し、コントロールすることによって、デザインと温熱環境がバランスよく共存している住まいを設計できるようになることを目標とする。シミュレーションをした結果を空間構成にフィードバックし、デザインに変更を加えていく過程を通して、温熱環境と空間構成の関係性を見極めて最適解を探る訓練を行う。なお、授業の成果物をもとにした学外の設計コンペへの応募にも取り組む。	
			地盤工学演習・実験		地盤工学演習・実験では、地盤工学特論で講義を行った土の圧密特性、土のせん断特性、動的せん断特性について理解を深めるために、圧密試験、三軸圧縮試験(せん断試験)、動的三軸圧縮試験(動的せん断試験)の実験を実際に行う。この授業によって圧密試験、三軸圧縮試験、動的三軸圧縮試験がどのような手順で行われ、試験が地中の土をどのように再現しているのか理解し、その試験結果をどのように解釈するのか理解する。そして、地盤工学特論で修得した理論的な考え方と比較することで地盤工学の理解を深める。	演習15時間 実験15時間
			建築生産演習・実験		少子化や高齢化が進む中で、担い手不足が顕在化し、建設生産の持続可能性が危ぶまれている。特に、熟練の技術者や技能者が引退すると、高度な知識・技術・技能が受け継がれずに断絶する怖れがある。その対応策として、熟練者から若年者への技術・技能の継承を効率的に進める方法がある。本科目では、AR(拡張現実)技術を応用して、技術・技能の継承を効率的に行う手法を受講者自身が体験する。到達目標は、AR(拡張現実)技術の活用と、これを使った効率的な技術・技能継承の技法修得である。	演習20時間 実験10時間

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目	建築学研究 1	<p>建築学に関する修士研究（論文・設計）のための基礎科目である。建築学は、意匠設計、構造、設備・環境、住宅、建築計画、建築史、建築材料、建築生産、マネジメント、社会構造、都市インフラ等、多岐にわたる学問であり、建築学研究 1 では各領域に必要な文献・調査理論・手法を学び、修士研究（論文・設計）を自らの視点で進めることができるようになるための基礎を培う。この導入的な学びを通して修士研究（論文・設計）のテーマ策定につなげていく。</p> <p>(1 年縄 巧) 3次元振動台による振動実験、高感度地震計を利用した現地観測、コンピュータを用いた数値解析について研究指導を行う。</p> <p>(2 西浦 定継) 都市・地域計画及び都市空間解析について研究指導を行う。</p> <p>(3 小笠原 岳) 建築環境・設備における省エネルギーや環境負荷低減のための技術開発について研究指導を行う。</p> <p>(4 川崎 修一) 建築、都市を規定する法制度や都市政策について研究指導を行う。</p> <p>(5 齊藤 哲也) 地域の自然、歴史、文化を起点とする歴史的空間の再編をテーマに研究と設計の両側面から研究指導を行う。</p> <p>(6 西澤 秀喜) 建築生産の担い手確保のために熟練者から若年者への効率的な技術・技能継承技法の開発と評価について研究指導を行う。</p> <p>(7 藤村 和正) 都市・地域の安全と魅力づくりについて、防災と環境の両面から、地域空間構造の再編成と開発、保全をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(8 村上 晶子) 建築プログラムを通して社会の中で求められる建築空間の建築意匠・設計について研究指導を行う。</p> <p>(9 矢島 寿一) 新しい地盤材料や災害に強い地盤材料の開発について研究指導を行う。</p> <p>(10 米田 正彦) 都市における建築・住環境等を対象に、構造、環境工学・設備、造園、経済等の建築技術を総合する建築設計について研究指導を行う。</p> <p>(11 高橋 彰子) 日本の近現代住宅を対象に、技術革新に伴う住環境の変化や住宅デザインと家族の関係性などを、設計と研究の両面から研究指導を行う。</p> <p>(12 高橋 義考) 構造物に存在する機構的な運動を対象に、コンピュータを用いた運動解析を行い、構造物の安全性を調査する方法について研究指導を行う。</p> <p>(13 柄内 秋彦) 住環境シミュレーションを用いて、快適でエネルギー消費が少ない住まいのデザイン手法について研究指導を行う。</p> <p>(14 深井 祐紘) 建築空間の使われ方やその空間内における人の心理などをテーマに研究指導を行う。</p> <p>(15 鱧沢 曜) 建築構造に関する研究として、建物に求められる性能と具体的な構造技術について研究指導を行う。</p> <p>(16 松尾 智恵) 構造設計・構造デザイン・空間構造に関する研究として、立体的な力の流れ、素材を活かす構造システムについて研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目	建築学研究 2	<p>建築学に関する修士研究（論文・設計）のための基礎科目である。建築学研究 2 では建築学研究 1 での各領域において学んだ理論・手法に基づいた導入的な研究を行い、修士研究（論文・設計）のテーマを自ら決定する。各自の研究目的に即した方法の立案と計画を立て、論理的整合性や研究意義、倫理的配慮について検討するとともに、実証性を伴った研究を実践していくことを目指していく。</p> <p>(1 年縄 巧) 3次元振動台による振動実験、高感度地震計を利用した現地観測、コンピュータを用いた数値解析について研究指導を行う。</p> <p>(2 西浦 定継) 都市・地域計画及び都市空間解析について研究指導を行う。</p> <p>(3 小笠原 岳) 建築環境・設備における省エネルギーや環境負荷低減のための技術開発について研究指導を行う。</p> <p>(4 川崎 修一) 建築、都市を規定する法制度や都市政策について研究指導を行う。</p> <p>(5 齊藤 哲也) 地域の自然、歴史、文化を起点とする歴史的空間の再編をテーマに研究と設計の両側面から研究指導を行う。</p> <p>(6 西澤 秀喜) 建築生産の担い手確保のために熟練者から若年者への効率的な技術・技能継承技法の開発と評価について研究指導を行う。</p> <p>(7 藤村 和正) 都市・地域の安全と魅力づくりについて、防災と環境の両面から、地域空間構造の再編成と開発、保全をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(8 村上 晶子) 建築プログラムを通して社会の中で求められる建築空間の建築意匠・設計について研究指導を行う。</p> <p>(9 矢島 寿一) 新しい地盤材料や災害に強い地盤材料の開発について研究指導を行う。</p> <p>(10 米田 正彦) 都市における建築・住環境等を対象に、構造、環境工学・設備、造園、経済等の建築技術を総合する建築設計について研究指導を行う。</p> <p>(11 高橋 彰子) 日本の近現代住宅を対象に、技術革新に伴う住環境の変化や住宅デザインと家族の関係性などを、設計と研究の両面から研究指導を行う。</p> <p>(12 高橋 義考) 構造物に存在する機構的な運動を対象に、コンピュータを用いた運動解析を行い、構造物の安全性を調査する方法について研究指導を行う。</p> <p>(13 柄内 秋彦) 住環境シミュレーションを用いて、快適でエネルギー消費が少ない住まいのデザイン手法について研究指導を行う。</p> <p>(14 深井 祐紘) 建築空間の使い方やその空間内における人の心理などをテーマに研究指導を行う。</p> <p>(15 鱧沢 曜) 建築構造に関する研究として、建物に求められる性能と具体的な構造技術について研究指導を行う。</p> <p>(16 松尾 智恵) 構造設計・構造デザイン・空間構造に関する研究として、立体的な力の流れ、素材を活かす構造システムについて研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目	建築学研究3	<p>建築学に関する修士研究（論文・設計）を発展的、かつ具体的に進めるための科目である。建築学研究3では建築学研究2で策定、決定したテーマの修士研究（論文・設計）を進める。各自の研究目的に即した方法の立案と計画に則って、論理的整合性や研究意義、倫理的配慮について検討するとともに、実証性を伴った研究を実践する。</p> <p>(1 年縄 巧) 3次元振動台による振動実験、高感度地震計を利用した現地観測、コンピュータを用いた数値解析について研究指導を行う。</p> <p>(2 西浦 定継) 都市・地域計画及び都市空間解析について研究指導を行う。</p> <p>(3 小笠原 岳) 建築環境・設備における省エネルギーや環境負荷低減のための技術開発について研究指導を行う。</p> <p>(4 川崎 修一) 建築、都市を規定する法制度や都市政策について研究指導を行う。</p> <p>(5 齊藤 哲也) 地域の自然、歴史、文化を起点とする歴史的空間の再編をテーマに研究と設計の両側面から研究指導を行う。</p> <p>(6 西澤 秀喜) 建築生産の担い手確保のために熟練者から若年者への効率的な技術・技能継承技法の開発と評価について研究指導を行う。</p> <p>(7 藤村 利正) 都市・地域の安全と魅力づくりについて、防災と環境の両面から、地域空間構成の再編成と開発、保全をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(8 村上 晶子) 建築プログラムを通して社会の中で求められる建築空間の建築意匠・設計について研究指導を行う。</p> <p>(9 矢島 寿一) 新しい地盤材料や災害に強い地盤材料の開発について研究指導を行う。</p> <p>(10 米田 正彦) 都市における建築・住環境等を対象に、構造、環境工学・設備、造園、経済等の建築技術を総合する建築設計について研究指導を行う。</p> <p>(11 高橋 彰子) 日本の近現代住宅を対象に、技術革新に伴う住環境の変化や住宅デザインと家族の関係性などを、設計と研究の両面から研究指導を行う。</p> <p>(12 高橋 義考) 構造物に存在する機構的な運動を対象に、コンピュータを用いた運動解析を行い、構造物の安全性を調査する方法について研究指導を行う。</p> <p>(13 柄内 秋彦) 住環境シミュレーションを用いて、快適でエネルギー消費が少ない住まいのデザイン手法について研究指導を行う。</p> <p>(14 深井 祐紘) 建築空間の使われ方やその空間内における人の心理などをテーマに研究指導を行う。</p> <p>(15 鱈沢 曜) 建築構造に関する研究として、建物に求められる性能と具体的な構造技術について研究指導を行う。</p> <p>(16 松尾 智恵) 構造設計・構造デザイン・空間構造に関する研究として、立体的な力の流れ、素材を活かす構造システムについて研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目	建築学研究 4	<p>建築学に関する修士研究（論文・設計）を最終成果として完成させるための科目である。建築学研究 4 では建築学研究 3 で発展的、かつ具体的に進めてきたテーマの研究について、修士研究（論文・設計）として最終成果物を纏める。各自の研究目的に即した方法の立案と計画に則って、論理的整合性や研究意義、倫理的配慮について検討するとともに、実証性を伴った研究の実践として、最終成果物の纏めと共に修士論文もしくは修士設計として発表する。</p> <p>(1 年縄 巧) 3次元振動台による振動実験、高感度地震計を利用した現地観測、コンピュータを用いた数値解析について研究指導を行う。</p> <p>(2 西浦 定継) 都市・地域計画及び都市空間解析について研究指導を行う。</p> <p>(3 小笠原 岳) 建築環境・設備における省エネルギーや環境負荷低減のための技術開発について研究指導を行う。</p> <p>(4 川崎 修一) 建築、都市を規定する法制度や都市政策について研究指導を行う。</p> <p>(5 齊藤 哲也) 地域の自然、歴史、文化を起点とする歴史的空間の再編をテーマに研究と設計の両側面から研究指導を行う。</p> <p>(6 西澤 秀喜) 建築生産の担い手確保のために熟練者から若年者への効率的な技術・技能継承技法の開発と評価について研究指導を行う。</p> <p>(7 藤村 和正) 都市・地域の安全と魅力づくりについて、防災と環境の両面から、地域空間構造の再編成と開発、保全をテーマに研究指導を行う。</p> <p>(8 村上 晶子) 建築プログラムを通して社会の中で求められる建築空間の建築意匠・設計について研究指導を行う。</p> <p>(9 矢島 寿一) 新しい地盤材料や災害に強い地盤材料の開発について研究指導を行う。</p> <p>(10 米田 正彦) 都市における建築・住環境等を対象に、構造、環境工学・設備、造園、経済等の建築技術を総合する建築設計について研究指導を行う。</p> <p>(11 高橋 彰子) 日本の近現代住宅を対象に、技術革新に伴う住環境の変化や住宅デザインと家族の関係性などを、設計と研究の両面から研究指導を行う。</p> <p>(12 高橋 義考) 構造物に存在する機構的な運動を対象に、コンピュータを用いた運動解析を行い、構造物の安全性を調査する方法について研究指導を行う。</p> <p>(13 柄内 秋彦) 住環境シミュレーションを用いて、快適でエネルギー消費が少ない住まいのデザイン手法について研究指導を行う。</p> <p>(14 深井 祐紘) 建築空間の使われ方やその空間内における人の心理などをテーマに研究指導を行う。</p> <p>(15 鱧沢 曜) 建築構造に関する研究として、建物に求められる性能と具体的な構造技術について研究指導を行う。</p> <p>(16 松尾 智恵) 構造設計・構造デザイン・空間構造に関する研究として、立体的な力の流れ、素材を活かす構造システムについて研究指導を行う。</p>	